

九折坂と太極八卦圖

坪 博康

平成二十八年（丙申）七月十四日

先月、國際會議出席の爲二年ぶりに京城ソウルを訪問す。會議最終日の晚餐會にて前菜として九折坂クシヨルバン出づ。九折坂は朝鮮半島固有の傳統料理にして、その膳立は正八角盆の中心部に同じく正八角形の枱を設け、ミルジョンピョン（小麦煎餅）なる餃子の皮の如きものに松の實數粒を配して、人數分盆を盛り、枱形の八面と各々正對する外縁の八面とを結びたる八つの梯形枱に夫々八種の色とりどりの野菜類を盛り附く。各々は小麦煎餅を取り、その上に八種類の野菜を載せ、包くろみて食す。祝祭等の食事の際前菜として出づること多し。（左上圖參照）

我が隣席の米國人、正面席の三、四十歳代韓國人數人に九折坂に就き訊ぬるも、誰一人として解説する能はず。中心の正八角形の枱一つ、周圍の枱八つあるを以て「九折」と呼ぶ迄は答へ得るも、其の起源、膳盆の形狀の意味等に就きて知る者なし。その起源必ずしも明らかならずも、膳盆の形狀より「八卦」との關係は容易に想像し得。其の形狀は十四世紀より廿世紀迄續く朝鮮國國王旗「太極八卦圖」に酷似し、現在の大韓民國「太極旗」の原型と云はる。（左圖に上は「太極八卦圖」、下は「大韓民國太極旗」）現在の太極旗には中心圓に赤（陽）青（陰）が示され、其の周圍に四卦あり。八卦は乾けん、兌だ、離り、震しん、巽そん、坎かん、艮こんより成るも、現代韓國の國旗たる太極旗には乾、離、坎、坤の四卦を見るのみ。但し、八卦より四卦へと變化したる經緯に就きては未だ統一見解なしと云云。

小生、「易經」より得たる幾許かの知識に基づき、恰も朝鮮半島の傳統及？史の大家の如く得意げに同席の米國人及び韓國人に云云を説く。自國國旗の成り立ち、意味等に就き知らざるは、悲しき哉、我國の若年層も同様なり。況してや、「易經」を含む四書五經を基本的教養として持たざる現代の日本人の多くは、「咸臨丸」を知ると雖も「咸臨」の意味を知らず。「蹇蹇録」を知るも「蹇」の意味も「蹇蹇」と「蹇」を二つ重ねる意味も知らざるなり。勝海舟、陸奥宗光らにとりては當然の教養なるも、その意味、今失はれたるは残念と云はざるを得ず。

他國を見て自國を知り、己の知らざるを知る。今次の「隣の國」にての旅の最大の收穫なり。（了）

（平成二十八年七月二十九日受附）